

「私たちはどう生きるか」

河野孝志氏

1 プロローグ

映像「ある少女の苦しみ」を視聴

トランスジェンダー交流会で出会ったまりあさん。まりあさんは、トランスジェンダーであることが怖いのではなく、ありのままに生きることを受け入れてくれないかもしれないことに怖さを感じている。「ありのままの自分を認めてくれること」が大切。受け入れる学校(教師)が不安だから、わからないからという理由で、まりあさんを守れていない、まりあさんがいじめられたときも加害者サイドに立っていた学校の対応はいけないのではないか。小、中学校で学力が保障されていなかったまりあさんは芸能の専修学校へ進学したが、「私はトランスジェンダーの子どもたちみんなの希望になりたい」と言っていたそう。そのための大前提は、カミングアウトすることだが、そうすると誹謗中傷されることにもなったそう。この状況をどう思う？

女性専用車両にも乗らなくなったそうだが、どうしてだと思う？

2 水平社宣言から日本国憲法

映像「水平社を立ち上げた人たち」を視聴。

差別ではなく尊敬を！1922年3月3日、水平社宣言。集会に参加すること＝カミングアウトすること。悩んでいた人たちは、会場に入ったとたんに胸のつかえがとれたそう。そんな人たちが1000人集まった。西光万吉の言葉「人間はいたわるべきものではなく尊敬すべきもの。」

山田孝野次郎少年の言葉「泣いている場合ではない、若い兄弟よ、団結しよう。」

今を生きる私たちが差別を無くす。

あなたは自分をいじめる人を尊敬できますか？自分は、できない、と思っていたが。皆さんはど

うでしょうか。今も昔も社会は冷たいものかもしれない。しかし、それを作っているのも人間。

社会を作るべき、目標とする言葉は？とても好きな言葉ですが。

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」

3 人権について考える

「人権」から連想される言葉を選んでください。

人権とは行使するもの。保障されている生きる権利。だから使わないといけない。使うことが保

障される社会でなければいけないと思う。

「差別の反対は尊敬」

仲良くしましょうと言うけれど、仲良くできないときは？仲良くはしなくていいけれど、いじわ

るはしない。自分が嫌いなときは相手も嫌いかもしれない。でも、その人の存在を否定してはダ

メですよ。

「日本国憲法の条文」から。権利を守るのは自分たち、人の権利を守るのも自分たち。

私たちの世代がめざした21世紀は「人権の世紀」21世紀に生まれた皆さんは、今どう感じて

いますか？考えてみてください。

「自助」「共助」「公助」の考え方。公助がなければ自助はできないのでは？と思っている。

学校はあなたたちにとって、「安全」「安心」できる場所であるはずだと思います。「居場所」であるべきだと思います。「居場所」は空間ではなく、「人」だと思います。

私たちはどう生きるのか？河野さんの考え。

「私は、お互いの存在を尊重し、自他の権利が最大限に保障される社会の創始者になりたい」

私の理想とする社会は「他者から頑張ることが強制されない社会。自分の思いが実現できる社会。」

「課題を抱えさせられた人たちが頑張らなくてはいけない社会は間違っていると考えています。

自然体の人たちが社会を形成していける状態がいいと思っています。

「差別に負けないように」というけれど？それは差別があることが大前提になっていると思うの

でおかしいと思っている。「差別する人が差別される人を生み出す」のだと思っている。

「差別を許さない人」になる、育てていきたいですね。

4 まとめ

教師と生徒の関係は？梵鐘が生徒、撞木が教師だと思う。ぶつかることで鐘が鳴りますね。鐘が

響くのは均質な材質ではないからだそう。皆さんはどんな音でなりたいですか？どこをついたら

一番いい音が鳴るでしょう？